

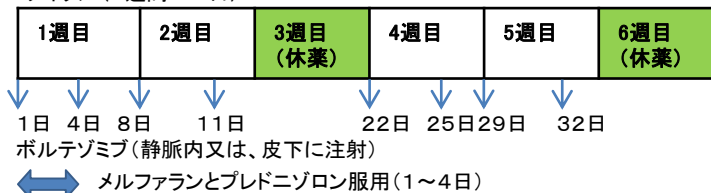
ボルテゾミブによる治療を受けられる方へ

1. VMP療法の場合

ボルテゾミブ(V)、メルファラン(M)、ブレドニゾロン(P)を併用する治療法

投与スケジュール

(1) 1～4サイクル目
1サイクル(6週間:42日)



(2) 5～9サイクル目(6週間:42日)

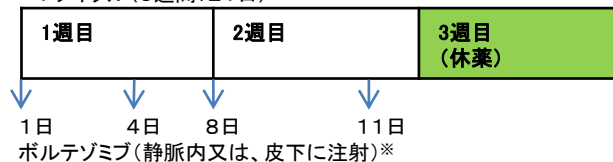


2. VD療法の場合

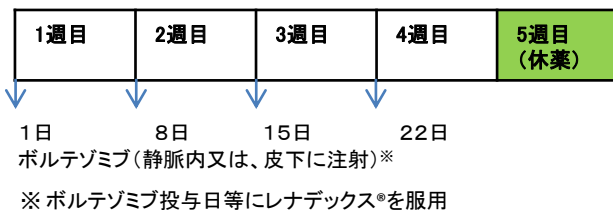
ボルテゾミブ(V)、デキサメタゾン(D)を併用する治療法

投与スケジュール

(1) 1～8サイクル目
1サイクル(3週間:21日)



(2) 9サイクル目以降は下記の投与方法に変更する場合があります。
1サイクル(5週間:35日)



◎ 投与スケジュールは、状態や副作用の程度により、変更されることがあります。

主な副作用と発現時期

次のような症状があらわれたら、医療スタッフにお知らせください。

※ 個人差があるので、その他の副作用についても十分注意して下さい。

治療当日～数日

- 発熱(投与ごと)
- 注射部位反応
- 下痢、吐き気、食欲不振(投与中いつでも)

治療数日～数週間

- 血小板減少
- 好中球減少
- 発疹
- 疲労感

数週間～数か月

- 末梢神経障害

◇間質性肺炎

息切れ、呼吸が苦しい、咳、発熱が続くといった症状が出た場合は、速やかに受診してください。

◇末梢神経障害

手足の先にしびれや痛みが出る、感覚が鈍くなる、冷感や温感が感じにくくなるといった症状が高い頻度で起こります。このような症状が出た場合、我慢しないで主治医にご連絡ください。

◇好中球減少

外出時はマスクを着用し、人混みを避けましょう。手洗い、うがいをこまめにしましょう。

◇血小板減少

血便や身に覚えのない皮下の出血斑、口腔内の血腫(血まめ)が生じた場合、速やかに主治医にご連絡ください。

◇発熱

ボルテゾミブを注射した日から、翌日にかけて、一過性の発熱が高い頻度で起こります。主治医から解熱剤を渡されている方は指示通りに服用してください。発熱が長く続く場合、感染症が起きている可能性もあるため、速やかに主治医にご連絡ください。

◇心臓の障害

全身のむくみや脈の乱れが出た場合、速やかに主治医にご連絡ください。

◇胃腸症状:食欲不振、吐き気、便秘、下痢

消化の良いものや食べたいものを少量ずつ食べるようにしましょう。食事がとれない場合でも十分な水分補給を心掛けてください。

◇注射部位反応

皮下注射した部位で赤み、痒みなどが起こることがありますが、時間とともに消失します。

◇疲労感、倦怠感、脱力感

疲れを感じた時は無理をせずに体を十分に休めて、体力を温存してください。

◇低血圧

めまい、ふらつき、低血圧が起きる場合がありますので、急に立ち上がるなど急激に体位を変えることは避けてください。